

支店長の わがまち紹介 第76回



下妻市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県下妻市です。下妻営業部長が下妻市長 菊池 博氏にお話を伺いました。

下妻市は「筑波経済月報」第31号(2016年2月)第31回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、下妻市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。



下妻市長 菊池 博氏



下妻営業部長 白澤 航洋

■美しい緑と水に恵まれた住みやすいまち

東京から約60km圏、茨城県南西部に位置する下妻市は、人口約42,000人のコンパクトなまちでありながら、買い物や子育て、医療・福祉環境などが充実した“住みやすさ”が魅力です。

また、まちの中央部には本市のシンボルである

砂沼があるほか、東に小貝川、西に鬼怒川と美しい緑と水資源にも恵まれています。また、平成29年に茨城県内の圏央道が全線開通したことで、アクセス性がさらに向上し、まちの魅力度も高まっています。

■まちづくりの主役「市民」と考えるまちの将来像

平成18年の合併以降、2つの自治体として算定・交付されてきた普通交付税は、平成28年度以降、段階的に減額されています。令和4年度からは本来通り、1つの自治体として算定されるため、大幅に減額されることとなります。

また、合併時に約46,000人だった人口は年々減少し、税収は減少する一方で、社会保障制度に要する経費は年々増加しています。

私はこの現状を踏まえつつ、魅力ある下妻市の将来像を作るために、どのような対応策が必要なのか、市民の皆様と一緒に考え、ご意見をできる限り施策に反映させるため、「どこでも市長室」を開催しています。

■現有資産の活用と「スクラップ&ビルド」

税収減少に対する対応策として、最初に考えたのは「スクラップ&ビルド」です。つまり、既存施設の活用方法を根本的に見直しました。

その1つ「砂沼サンビーチ」は、昭和54年の開園から40年間にわたり市民から愛されてきた施設です。しかし、老朽化が進み修繕に多額の費用がかかること、入場者が伸び悩み赤字経営が続いたことなどから、昨年、運営廃止という苦渋の決断をしました。

今後は公園管理者である茨城県と調整を図りながら、市民の皆様や議会の意見を参考に、砂沼西岸地域にある下妻市開発公社の所有地や「ビアスパークしもつま」などの観光施設と一体的な活用を検討し、市民の憩いの場、さらには交流人口の増加など、相乗効果が期待できるエリアを作りたいと考えています。



砂沼にほど近い「Waiwaiドームしもつま」でのイベントの様子

また、下妻市はこれまで、「ビアスパークしもつま」の管理・運営に対して多額の指定管理料を毎年支出してきました。しかし、今後は指定管理者を民間企業に切り替えることで指定管理料を減額し、再建を目指したいと考えています。

「道の駅しもつま」は、現在のところ順調に運営中ですが、今後、近隣自治体との競争が激化することが予想されます。そのため、地域おこし協力隊を配置し、新たな商品開発や販路の拡大、下



道の駅しもつま

妻市の特産品のPRなどを積極的に行っていきたいと考えています。

また、「Waiwaiドームしもつま」、「さん歩の駅サン・SUNさぬま」にも、地域おこし協力隊をそれぞれ配置し、下妻市の魅力を発信していく予定です。

■新しい公共交通網の形成やタクシー補助券の充実

高齢化や核家族化の進展で、いわゆる「交通弱者」が増加し、公共交通の拡充が喫緊の課題となっていることから、現在、下妻市と筑西市の連携によるバス路線網拡充を検討しています。今年度中に実施予定のニーズ調査の結果から、旧関城町地区住民の買い物需要などが確認できた場合は、新たなルートで関東鉄道下妻駅を発着する広域連携バスの運行も考えています。

また、八千代町から市内にある茨城県立下妻第一高等学校や下妻第二高等学校へ通学する生徒も多いことから、八千代町と連携したバスの運行も検討中です。朝・夕の運行だけでも、両校への入学希望者が増加すると考えています。

そして、最終的にはつくば市と連携した広域交通網を形成したいと考えています。買い物需要だけでなく、筑波大学附属病院や筑波メディカルセンター病院などの高度先進医療に対応する機関への交通網を整備することで、市民の皆様が、より安心して暮らせるまちになると思います。

高齢者に対する公共交通の補完策として、タクシーの初乗り運賃相当額を助成する補助券を交付しています。今年度は、交付枚数を12枚から24枚に増やしたほか、タクシー1回の利用で最大2枚まで使用できるなど、金額面と利便性の両面を充実させました。

また、障害者の方に対しては、年間で最大48回分利用できる中型タクシーの初乗り運賃相当額を助成する補助券を交付しています。今年度は、新たに精神障害者保健福祉手帳2級所持者を対象者に追加しました。路線バスやシモンちゃんバスでは対応しきれない場所への移動にご利用いただければ嬉しく思います。

■市の中心市街地を bypass しない道路網の形成

都市計画道路 南原・平川戸線の用地取得がすべて完了し、今年度末に工事が完了する見込みとなりました。完成後は、つくば下妻工業団地から

国道294号線へのアクセス性の向上が期待できるほか、大型車が市街地を經由しない道路網が形成されるため、生活環境の改善、さらなる地域発展も見込んでいます。

■しもつま鯨工業団地で新たな企業の誘致へ

今年1月に造成工事が完了した「しもつま鯨工業団地」は、圏央道「常総IC」から国道294号を經由して、わずか10分というアクセス性の高い場所に位置しています。

タイミングなどの好条件が重なり、既に2区画の売却先が決まりました。残り1区画も立地条件が良いため、すぐに売却できると考えています。

先に述べたように、今後、税収は減少していくと予想されますが、この工業団地での税収などで補完したいと考えています。また、誘致企業による雇用創出も期待しています。



しもつま鯨工業団地

■特産品を活かした「ふるさと納税」

下妻市は、水稻、果樹、野菜、畜産などの農業が盛んであり、質の良い特産品が数多くあります。歳入増加対策である「ふるさと納税」は増加傾向にあり、今年はずでに昨年の半分ほどが集まっています。今後もより多くの方から寄附をいただけるよう、PRに力を入れていきたいと思っています。

■農産物のブランド化、海外輸出の推進

下妻市は全国でも有数の梨の産地です。幸水をはじめ、豊水、あきづき、新高など様々な品種を生産しています。

中でも、「甘熟梨」は、下妻市果樹組合連合会のプロジェクトチームが生み出した自慢のブランド梨です。通常の梨より収穫を10日程度遅らせ、樹木上で熟させることで梨本来の高い糖度と風味を引き出しています。8月下旬の短期間限定販売

のため、「幻の梨」とも呼ばれています。ぜひ一度ご賞味ください。

また、近年、下妻市産の梨をタイやマレーシア、ベトナムなどに輸出しており、特にベトナムには、年間150 tを輸出しています。JAなどと連携・協力し合い、今後さらに輸出量を増加させたいと考えているほか、梨以外の農産物の輸出にも力を入れていきたいと思っています。



甘熟梨

■防災拠点づくりで“安心・安全なまち”へ

下妻市の本庁舎は、平成8年度に実施した構造耐震診断において耐震指標であるIs値の最小値が0.40と診断されました。この数値は震度6強程度の地震で倒壊や崩壊の危険性があることを示しています。さらに、これは20年前の結果であり、現在のIs値はさらに低下していると考えられています。また、自家発電設備も未設置のため、災害の応急対策に支障が出る恐れもあります。

このような背景から、本庁舎の建て替えを予定しています。災害対策本部としての機能を有し、ユニバーサルデザインを採用した「誰もが快適に利用しやすい庁舎」に生まれ変わる予定です。

今後、市民の皆様の意見を取り入れつつ、同じく耐震性に不安のある千代川庁舎や市民文化会館の在り方や消防署の移転位置などについても併せて検討していきます。

■筑波銀行に期待すること

筑波銀行には、定期的に情報をいただいております。また、私募債へのご協力に対しても感謝しています。

今後も一緒に下妻市を盛り上げ、お互いに情報交換をしながら、発展していきたいと思っています。

取材日：2019年7月23日

写真提供：下妻市